



IPS細胞 山中教授がJCHO学会で講演



9月16日(金)、17日(土)の2日間に渡り、JCHO本部がある品川で第2回JCHO地域医療総合医学学会が開催されました。

この学会は、全国57のJCHO病院に勤務する職員が一堂に会し、互いの成果を発表し、意見を交換する貴重な場です。一般の方には公開しておりませんのであしからず。

今回の学会は「スタートしたチームJCHO」その軌跡とミッションの達成に向けてがテーマで、本年2月に開催された『第1回JCHO地域医療総合医学学会』のフォローアップの場と位置づけ、それぞれのテーマが「どう展開したか。より深く分析されているか。実行にどのように結び付いているか。」等を検証する場として、各プログラムが企画がされ実施されました。各病院から、継続して行った活動報告、新たにスタートした活動報告といった素晴らしい発表があり、とても有意義なものとなりました。

当院からは、職員5名が発表し、精神科の大坪天平主任部長が「シンポジウム2 地域包括ケアにおける認知症への取り組み、これまでどこ

れから」にてシンポジストを務めました。

ほんの少しですが、当院の職員が発表した様子をご紹介します。

また、今回の特別講演では、京都大学iPS細胞研究所 所長・未来生命科学開拓部門の山中伸弥教授が講演されました。とても気さくなお人柄で、当院の関根信夫院長との記念写真を快く受けて下さいました。

今後とも病院の取り組みについてご紹介していきたいと思っておりますのでご期待下さい！

(総務企画課 笹本美帆)



「山中教授より iPS細胞研究基金 ご寄付のお願い」 詳細は <https://www.cira.kyoto-u.ac.jp/j/about/fund.html> をご覧ください



今回、リオデジャネイロ五輪に男子水球のトレーナーとして帯同しました。日々の業務の中で学んだ医学的な知識や身体に関する知識がスポーツの現場で活かせることも多く、この病院で勤務して良かったと思います。

(リハビリテーション室 濱中康治)



先日リオで開催されたオリンピックに、柔道のチームドクターとして帯同してきました。当院で治療された選手は、代表14名中7名でした。様々な科の先生方にお世話になりました。4年後の東京オリンピックも応援宜しくお願いします。

(整形外科 医長 紙谷武)

NEWS 1

私達
リオオリンピックに
帯同しました。

詳細は [Web](#) で!



がん治療における「周術期口腔機能管理」について

一般にがんの手術は全身麻酔で行われることが多く、全身麻酔では、(ドラマの中の手術シーンなどで、見たことがある方も多いかと思いますが)図のようにプラスチック製のチューブを口の中から気管の中に挿入し、人工呼吸を行います。

この時口の中が汚れていると、チューブに付着した汚れが気管に入り、誤嚥性肺炎をおこすことがあるので、手術前に口の中をきれいにすることが求められています。また術後の絶飲食やベッド上での安静が必要な場合も、口の中の清潔が保てず、肺炎や口内炎になるリスクが生じるため、口腔ケアが必要となります。

抗がん剤治療や放射線治療では、治療開始から数日〜数週間後に白血球数が減少するため、感染による歯周病の増悪や口内炎、口腔乾燥、味覚異常などが生じ、またがん治療に併用されるビスホスホネート製剤などについては、副作用として顎骨炎が報告されています。これらによる痛みや食事困難による体力低下が、がん治療そのものが中断されるような、事前に感染源となる歯のチェック、抜歯などの歯科処置と口腔清掃をおこなうことが必要です。

緩和治療に移行した患者さまも、放射線や抗がん剤の影響で、口内炎や味覚異常が生じ、食思不振に陥っていることが少なくありません。体力の低下を防ぎ、少しでもおいしく食事ができるように、専門的な口腔ケアや摂食機能訓練などを行い、QOL(クオリティ・オブ・ライフ・生活の質)の向上を目指してお手伝いします。

これら一連の歯科診療を「周術期口腔機能管理」といいます。

実際の手順として、当院では「がん」または「がんの疑い」で治療方針が決まったら、主治医の指示で歯科・口腔外科外来を受診していただきます。

手術の場合は、術中の歯の誤飲・誤嚥などのトラブルを防ぐため、動揺歯や差し歯のチェックをし、必要に応じてマウスピースの製作も行います。手術前日に外来で、口腔(歯・粘膜)の清掃、消毒を行い、術後は歯科衛生士が病室にうかがい、セルフケアができるようになるまでお手伝いをします。

「周術期口腔機能管理」は、ご自身のかかりつけの歯科医院で行うことも可能です。その場合はかかりつけの歯科医院に診療情報を提供させていただきますのでお申し出下さい。

近年、病院歯科では、他科でのがん治療や摂食機能療法を行っている患者さまのサポートをするという役割が加わり、病棟での活動が多くなっています。したがって外来での一般歯科診療に関しては、以前と比較して予約が取りづらい状況になっており、皆様に変化ご迷惑をおかけしています。

最後に、食べることは生きる根源であり、口の中を良好に保てなければ、食事に支障をきたし、健康寿命に多大な影響を及ぼします。よって「周術期口腔機能管理」を受けた方もそうでない方も、通院しやすいかかりつけの歯科医院を持ち、体とともに口のことも良い状態を維持していくことをお勧めします。

(歯科口腔外科 大庭祥子)



気管チューブ(COVIDIEN社:ホームページより引用)

「細菌」と聞いて皆さまはどのようなイメージをお持ちになるでしょうか。細菌が原因の食中毒や肺炎、腎盂腎炎などに罹られたことがある方は決まっています。また、世の中には除菌、抗菌をうたう商品があふれ、耐性菌という言葉も新聞やニュースでよく見かけられるようになり、細菌は体に悪いものであるという印象が強いと思います。

しかしながら、私たちは細菌なしで生きていくことが出来ないと言っても過言ではありません。私たちの身体の皮膚や口の内、おなかの中には多くの種類の細菌が存在します。これらの細菌は常在菌と言われ、食べ物の分解・吸収を助けたり、悪い細菌が進入・増殖しないように防波堤の役割をして身体を守っています。

私たちは環境や身体にいる様々な細菌とバランスを取りながら生活しています。そのバランスが崩れると細菌感染症を発生し、その場合には細菌検査が大変重要になります。

細菌検査とは、患者さまから採取された様々な材料(尿・便・痰など)の中に、細菌感染の原因となる細菌がいるかどうか、また原因となる細菌が見つかった場合はその菌に効く抗菌薬が何であるかを調べる検査です。

細菌がいるかどうか調べる主な検査には塗抹検査、培養検査があります。

塗抹検査は検査材料を染色して顕微鏡で観察して、菌種を推定する検査です。細菌は非常に小さいので1000倍の倍率で観察していきます。

培養検査は細菌が生育するた

コラム 第3回

細菌検査

めに必要な栄養分が含まれている培地に検査材料を塗り、発育に適した条件で培養する検査です。発育した菌の性状等を調べ、菌種を確定します。菌種の確定まで通常数日ですが、発育が遅い菌では数週間かかる場合もあります。

原因となる細菌が見つかった場合には、どの抗菌薬が効くのかを見るための検査(薬剤感受性検査)を行います。その結果によって治療に最適な抗菌薬が選択され適切な治療につながります。

私たち細菌検査室では信頼できる検査結果を提供できるよう努力を重ねていますが、これには患者さまの協力が欠かせません。適切な検査には適切な材料が不可欠なのです。痰や尿検査など採取方法の指示があったり、何度か提出して頂く場合があるのはそのためです。最良の検査が行えるよう、皆さまのご協力をお願いいたします。

(細菌検査室 板倉聡志)

「がん」または「がんの疑い」で治療方針が決まったら、主治医の指示で歯科・口腔外科外来を受診していただきます。

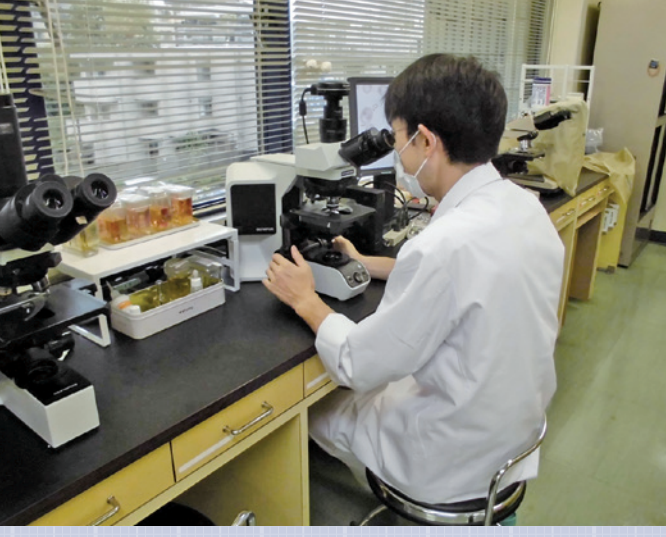
手術の場合は、術中の歯の誤飲・誤嚥などのトラブルを防ぐため、動揺歯や差し歯のチェックをし、必要に応じてマウスピースの製作も行います。手術前日に外来で、口腔(歯・粘膜)の清掃、消毒を行い、術後は歯科衛生士が病室にうかがい、セルフケアができるようになるまでお手伝いをします。

「周術期口腔機能管理」は、ご自身のかかりつけの歯科医院で行うことも可能です。その場合はかかりつけの歯科医院に診療情報を提供させていただきますのでお申し出下さい。

近年、病院歯科では、他科でのがん治療や摂食機能療法を行っている患者さまのサポートをするという役割が加わり、病棟での活動が多くなっています。したがって外来での一般歯科診療に関しては、以前と比較して予約が取りづらい状況になっており、皆様に変化ご迷惑をおかけしています。

最後に、食べることは生きる根源であり、口の中を良好に保てなければ、食事に支障をきたし、健康寿命に多大な影響を及ぼします。よって「周術期口腔機能管理」を受けた方もそうでない方も、通院しやすいかかりつけの歯科医院を持ち、体とともに口のことも良い状態を維持していくことをお勧めします。

(歯科口腔外科 大庭祥子)



当院は、公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審し、2015年11月の書面審査、2016年2月23日〜24日に実施された訪問審査の結果、一般病院2の認定を受けました。今回の病院機能評価受審は4回目にあたります。認定書は本館1階の外來ホールに掲示しましたので是非ご覧ください。





この冬 感染対策のお済みですか？

感染対策室で勤務している、感染管理認定看護師の中尾亜由美と申します。

感染管理の仕事とは、患者さまや面会者、ボランティアや職員、看護学生他病院内にいるすべての方々が対象です。皆様が、病院内で安全にすごせる環境となるように日々感染管理をしています。

世界・日本国内・当院周囲地域での感染症の流行情報を収集し、外来・入院患者さまの病気の傾向を知ること、感染症の早期発見・拡大防止につとめています。早目に流行を察知することで、病気の診断が早くなったり、感染を拡大させない対策を外来・病棟で周知するため

また、ICU (Intercare Control Team) という感染制御チーム (感染制御医師・細菌検査技師・薬剤師) とともに、血液や痰などから分離される細菌の種類や、薬が正しく使用されているか週1回カンファレンスを実施して、感染対策の専門家の視点が入るようになっています。さらに、外来や病棟などを巡視し、実際に感染対策が現場で正しく実施できているか確認しています。

また、ICU (Intercare Control Team) という感染制御チーム (感染制御医師・細菌検査技師・薬剤師) とともに、血液や痰などから分離される細菌の種類や、薬が正しく使用されているか週1回カンファレンスを実施して、感染対策の専門家の視点が入るようになっています。さらに、外来や病棟などを巡視し、実際に感染対策が現場で正しく実施できているか確認しています。

12月に入り、感染性胃腸炎 (特にノロウイルス) やインフルエンザが流行するシーズンです。

ノロウイルスは、非常に感染力が強いウイルスで、ウイルスが口から腸内に入ると感染します。2枚貝に含まれていることが多く、熱に弱いウイルスです。手にウイルスが付いた状態で調理をすると、その料理を食べた方が感染してしまうので、石鹸で30秒以上かけてしっかりと手洗いした後に調理をしてください。また、鍋などに魚介類を入れるときは中心部までしっかりと加熱 (85℃1分以上) してください。

インフルエンザは、飛沫 (咳等) や唾液やしぶきが飛び散るのを吸いこむこと、手に唾液や痰に含まれるウイルスがついて、その手で鼻や目の粘膜にさわることによって感染します。咳が出る時には、必ずマスクをして周囲に飛散させないようにしてください。また、人混みに行く時にはマスクをつけて、帰宅後は手洗いをし、うがいをしてください。マスクを打っておくと、インフルエンザにかかった時に症状が軽くすみますので、流行する前 (12月上旬頃) までに打っておくことをお勧めします。

医師・看護師・リハ (感染対策室 中尾亜由美)

看護専門学校へようこそ

学校HP <http://shinjuku.jcho.go.jp/kango/>
住所 : 新宿区揚場町 2-28
電話 : 03 (3260) 6291



所は病院から歩いて3分ぐらいの所です。

看護専門学校は3年間の修業年数は3年です。3年間かけて、看護師になるための専門的知識と技術を習得します。

看護専門学校で特徴的な学習は、何といっても実習です。3年のうち、約1年が実習です。最新の知識と技術が習得できるように、併設病院である東京新宿メディカルセンターでほとんどの実習を行っています。指導にあたる看護師は卒業生が多く、学生の看護モデルになっています。また、急速に変化する保健医療福祉システムや社会のニーズに対応できる能力が養えるよう、訪問看護ステーションや地域包括支援センター (新宿区では「高齢者総合相談センター」) と呼んでいます。 (老人ホーム、救急車同乗、保育園など様々な場面で実習を行っています。講義には、併設病院の医師、看護師をはじめ診療協力部門の先生方をいらしていただいています。当校は、1学年定員40名、3

こんには。JCHO東京新宿メディカルセンター附属看護専門学校です！

かわら版をお読みの皆さんは、病院に附属の看護専門学校があるのをご存じでしょうか。2年前の組織変更に伴い学校名は変わりましたが、昭和33年4月に厚生年金病院東京高等看護学院として開校した約60年の歴史を持つ看護専門学校です。場

これを読んで学校に興味をお持ちになった方は、学校HPもご覧になり、一度学校へ足を運びください。平日9:00~16:30は学校内の見学ができます。このかわら版が発行される頃は、平成29年度の学生募集をしています。周囲で看護師を志している方がいましたら、ぜひ当校を紹介してください。

(看護学校 井澤晴美)

新宿メディカルセンターを支える仕事人のリレーコラム

電話交換手



おそらく、病院職員だけでなく、患者さまはか多くの方々がお話を交わされ、存在を感じながらも、その多くがナゾに包まれている電話交換手。今回のコラムでは、電話交換手のお仕事やプライベート、はたまた当院職員へのお願いごとについて、交換手の方たちにインタビューしてきました。声を駆使する交換手の方には、みなさまの生活にもヒントになることがあるかもしれません！

●電話交換手とはどういうお仕事？

私たちは病院の外からのお電話を受け、適切な方に引き継ぐことがお仕事です。また、院内の職員からの院外へのお電話の要請を受けて、外線につなげることもあります。

その際に、私たちが気を付けていることが、その声色から、お気持ちや状況を察知することです。お話を耳を傾け、落ち着いていただいております。

また、外からのお電話では、時に病状の説明からお話を始められる方もあります。こうした場合には、お話を長くいた



速、丁寧、確実にお電話をつながなければなりません。

この病院の交換手は平日朝の8時半から夕方19時まで、1日600件くらいのお電話を受けております。電話交換は1対1でお顔も見えない方とのやり取りになりますので、電話件数の多少が仕事の充実につながることは考えておりません。むしろいただいたお電話1本1本に傾聴し、その1本のお電話でのやりとりを大事にするよう努めています。まさに一期一会といったところでしょうか。

●交換手として、病院の交換手として気を付けていること

お電話をいただいた方のお気持ちが沈んでいる様子があれば、明るく優しい語り口で、安心していただけるように心がけています。お互いに顔が見えないやりとりでも、声色は思っている以上にいろいろなものを伝えるのです。

病院の交換手としての特殊性は、とくに心身を患っている人からのお電話であったり、病気や命にかかわる問い合わせもあり、そして時には、緊張で対応しなければならぬ為、先に申し上げた迅速さ、丁寧さ、確実さがより要求される職場だと思えます。ですので、常に緊張を強いられる仕事場ではありますが、やりがいも感じております。

また、病院は患者さまがあつての病院であり、患者さま・ご家族さまが、さまざまな疑問、不安を抱えていらつしやるお気持ちに寄り添いながら、お話を伺うように心がけております。その一方で、最近では職員に対しての勧誘やご案内の電話など、また、時間外のむやみな問い合わせも増えてきましたので、時に病院職員側にも立って、毅然とした態度で電話応対することも必要となります。

よくある質問のお返事を統一できるよ

う工夫しています。

●うれしかったこと、こんな事件、当院職員へひとこと！

電話の最後に感謝の言葉をいただく時はやっぱりうれしいです。また、万が一カゼをひいてしまっても、一生懸命に仕事をしている、人と人とのやりとりなので、電話の向こうでカゼ声に気が付いて、逆にお気遣いくださることもあり、大変励みになります。ほかに、急を要するお電話については救急室が対応くださるなど、この病院は職員が協力的なもので、とても助かります。

最後になりましたが、院内放送も時々行っております。ボランティアコンサートなどのご案内の声の主は私達です。どうぞよろしくお願いいたします。

●新企画！かわら版編集員は見た！

音のないテレビがついていきましたが、地震情報などを迅速に把握するためだそです。ちなみに東日本大震災の際にはお問い合わせが多く、回線もパンク状態だったそうです。また、交換手の仕事場は、音が電話に届いてしまうので、基本的には静かにしている必要があり、テレビを消音にしているよう。今回のインタビューも小声でのやりとりでした。

風邪やのどの乾燥を防ぐためか、冷房にも直接風が当たらないよう覆いがかけられており、交換手の美声を損なわないよう工夫がなされていきました。職員へのセールズ対策をとっていらつしやり、交換手の方は、病院の岩ともなつてくれていました！

●コラムのコラム、のどを潤す秘訣を聞いてきました！

紅茶にお気に入りのはちみつを入れてのどを潤すのだそうで、リラックス効果もあるとか。また、のど飴を2個入れた100ccのお湯で、少し時間をおいてあめが溶けた状態の飲み物は、刺激も少なくのどにやさしいのだとか。風邪予防にもいいですよ！

(内科 藤井大輔)

JCHO 東京新宿メディカルセンター

理念

地域医療機能推進機構 (JCHO) 病院グループの一員として、患者さまの立場に立った親切で、心温まる医療を提供し、住民にとって必要な地域医療の提供に努めます。

基本方針

1. 医療法に定められた5疾病5事業およびリハビリテーションを重点的に強化します。

①がん診療において、地域の中核病院として質の高い総合的な医療を提供します。手術療法、放射線療法、化学療法、緩和ケア医療などにおいて、質の高い医療を提供します。

②糖尿病、脳血管障害、急性心筋梗塞、精神障害などの疾患に対して、最良の医療を提供します。

③リハビリテーション療法を充実し、切れ目のないリハビリテーションの提供を目指し、患者さまの自宅復帰を推進します。

④救急診療を充実します。

救急診療に真摯に取り組み、救急患者さまは、確実に受け入れるようにいたします。とくに救急隊からの診療要請に可能な限り応じるように努めます。

⑤僻地医療に取り組みます。医師不足のために必要な医療を受けられない患者さまのために、必要な地域へ医師を派遣するように努めます。

⑥災害医療の充実に努めます。災害時に被災住民への医療提供を確実に実施し、また医師、看護師、薬剤師、事務職員等を迅速に、被災地域に派遣できるように準備いたします。

⑦小児医療、周産期医療もできる限り充実するように努めます。

2. 総合診療機能を充実し、地域連携を深めます。

①専門領域の充実とともに、日常的に頻度が高く、幅広い疾病に確実に対応できる総合診療機能を充実します。

②地域の行政、医師会、医療機関との連携を強化します。

病院と地域の診療所の機能分担を促進し、紹介、逆紹介を効率的に行い、かかりつけ医との連携を深めます。かかりつけ医からの入院要請は可能な限り受け入れます。病院での診療が必要なくなった患者さまは、かかりつけ医にお戻しします。行政および医師会との連携を密にし、新宿区や医師会が進める、医療保健行政に積極的に協力いたします。

③地域包括ケアの構築に貢献いたします。行政、介護との連携を密にし、医療ニーズの高い患者さまの受け入れ、訪問看護、在宅医療への協力を積極的に実施いたします。

3. 患者さまの権利を尊重し、安全な医療を提供します。

①インフォームドコンセント(説明と同意)に基づく診療を確実に行ないます。

②医療安全には、特段の注意を払います。

③セカンドオピニオンおよび情報開示には積極的に応じます。

④個人情報保護に努めます。

⑤相談機能を高め、患者さまの悩みに親切に対応し、心温まるケアを提供します。

平成12年10月23日制定

平成17年3月14日改定

平成22年2月22日改定

平成26年3月10日改定



新コーナー 投稿写真

*掲載の写真は本人の了承を得ております。